令和6年度　兵庫県立湊川高等学校　学校評価

評価基準	5…とてもよくできた　4…よくできた　3…できた　2…あまりできなかった　1…できなかった

教育方針	（1）綱領「誠実・協同・自由・自治」の精神を踏まえ、勤労を尊び、学ぶ意欲を育み、自己教育力の育成に努める。 （2）生徒一人一人の個性を尊重し、きめ細かな教育的支援によって自他を大切にする心としなやかにたくましく生きる力を育む。
教育目標	1　人間として不可欠な倫理観の育成と人権尊重の精神に基づく教育の充実を図る。 2　自ら学ぶ意欲を育て、基礎的・基本的な学力の定着を図る。 3　定時制高校としての特色を生かし、魅力ある地域に開かれた学校づくりを進める。

番号	分掌等	本年度の重点目標	具体的な取り組み	評価		総括（成果及び課題と改善方策）	学校関係者評価
				教員	保護者		
1	総務部	防災避難訓練、震災講話等により、生徒・教員共に防災意識を高める。	防災避難訓練を実施し、避難経路を確認する。また、阪神・淡路大震災の教訓伝承のため震災講話を行い、防災意識を高める。緊急管理ﾏﾆｭｱﾙを更新し、より実用性を高める。	4.6	3.3	成果：地震・火災を想定した避難訓練を実施した。今年度は職員のみの訓練も行い、具体的な役割や動きを明確にし対応力を高めた。防災講話では教頭が阪神淡路大震災当時の本校の様子や南海トラフ地震に対する備えなどを映像を用いて行い、防災意識を高めることができた。危機管理マニュアルの部分改定を行った。職員室等の耐震環境づくりに取り組んだ。 課題：より実践的な避難訓練の方法の検討等。	困難を抱えている生徒が多い中、先生が頑張って取組んでいる。それが、先生と生徒の距離が近いという結果につながっている。進路、キャリア指導が大切で、これらと関連させて生徒指導や教科指導をしていくのが効果的である。生徒指導は昨年度3年生で実施していた取組みを全学年に広げられた。先生方が研修を実施して共通認識を持って取組んでいる。すぐに、全員に結果が出なくても発達支持的生徒指導を続けていただき、問題行動ができるだけ少なくなれば、と考える。そうすれば、先生方の時間的余裕もでき、もっと生徒のために力を注ぐことができるようになる。cocoro34も3年生の数値が良かった。引き続き取組みを進めていってほしい。
2		ホームページの更新、学校案内の配布や学校紹介チラシ(みなふく通信等)配布を行い、広報・宣伝活動に努める。	ホームページ（おいしい給食など）、オープンハイスクールなどを通して本校の魅力・特長を発信できるようにする。学校紹介をより魅力あるものに改善する。	4.4	3.5	成果：HPの更新を積極的に行い、給食献立はすべて掲載した。オープンハイの参加者のアンケートでは、本校の特色について好意的な回答が多かった。秋には職員による中学校訪問を行い広報に努めた。 課題：オープンハイなどの来校者には魅力を伝えられるが、来校しない中学生・保護者への広報活動の検討。HPへの情報の充実。	
3	教務部	基礎的・基本的な学力の定着を図る	少人数指導、習熟度別授業等を活用し、個に応じた学習指導を行う。また、生徒の学力を正確に把握し、授業中に身に付けさせるべき内容を明確にし、わかる授業を実践する。合わせて教材の改善や指導方法をより一層工夫する。	4.4	3.7	1年生と2年生については、ほぼすべての科目で少人数クラスや習熟度別クラスを展開することができ、生徒一人一人に丁寧な対応で授業を行うことができた。今年度は3年生の外国語でも習熟度別クラスを展開することができた。1学期に授業見学週間、2学期に授業公開週間を実施し、教科を超えた指導方法の共有を図った。しかし、非常勤講師の先生をうまく巻き込むことができなかったため、来年度は年度当初のガイダンスでしっかりと周知徹底したい。	
4		生徒の学習意欲を高める授業を実践する	ユニバーサルデザインを積極的に取り入れ、指導方法や教材を工夫し、どの生徒にとっても分かりやすい授業を実践する。	4.4	3.5	今年度から日本語指導対象の生徒も入学し、教材や考査の作成にあたっては全生徒が理解しやすいよう、ルビ対応や分かりやすい表現を用いる等の工夫を行った。また、全職員でタイムタイマーの使用や板書の工夫等を行った。しかし、入学当初から学力の差が大きい場合があり、教材の工夫がより一層必要である。来年度は各教科の工夫を全体で共有できる仕組みを整えたい。	
5	生徒指導部	社会的規範意識と正しい判断力を持ち、自主的・自律的に行動できる生徒の育成に努める	授業を含む、様々な学校行事や体験活動を通じて他者への思いやりや助け合いの精神を学ぶ。PBIS（ポジティブな行動への介入と支援）の手法を用いて社会的規範意識の啓発に努める。	3.8	3.8	5月に研修を行い、7月に教員研修を行った。7月の職員研修では、先生方に「理想の湊川生徒像」とはどういうものかを考えてもらい、時間を守る・約束を守る・モラルを守る生徒になってほしいという意見が多かった。2学期から「時間・約束・モラル」という字を教室に掲げた。しかし、なかなか思うようにいかなかった。規範意識を高めるためにどうしたらいいか具体的な取り組みを今後考えていきたい。	
6		1人1人の生徒を大切にし、個々の生徒の状況に応じた効果的な指導を行う。	生徒との対話等を通じ、生徒理解に基づく指導を行う。誰もが安心・安全に学べる学校にするため、情報共有を密に行い全教員で足並みを揃えた効果的な指導を行う。3行日記やMVPファイルによって生徒の現状把握や、自己肯定感の向上を図る。	4.4	3.7	教員の研修により、教員全体が同じ方向を目指して取り組めたと思うが、個々の生徒に効果的な指導ができたかどうかは疑問。3行日記やMVPファイルは全校生徒に行うことができたが、運用面でもっと活用していけたらと思う。	
7	進路指導部	キャリア教育の一環としての進路指導を行う	総合的な学習の時間、総合的な探求の時間や進路HRにおいて、進路についての講演を行うと同時に担任や進路部員との面談を行う。ガイダンスとカウンセリングの双方より社会においての自分の役割やどのような特徴が生かせるのかを考えられる力を養う。	4.5	3.2	総合的な学習の時間やHRなどを用いて、生徒に自身の進路について考えることができる機会を提供することができた。しかし、生徒一人一人が社会においてどのような役割を果たすことができるのかやどのように社会と関わっていくのかを機会を提供することはできたが、自発的に考えさせることがあまりできなかった。	「モラル・約束・時間」については、課題意識に着目している。「守りましょう」がうまく伝わっていないと「守りなさい」になってしまうので、注意が必要。責任が大切（自己責任）であること、他者を尊重すること、互いの安心安全を守ることのためにしていることを伝える。ルールを守れたことを褒めるのではなく、責任を持てていることを褒める。他者への思いやりができていることを褒めるようにしていくことが大事である。
8		在校生の進路意識を啓発する	自己の進路適性を把握し、進路意識の向上を促すために、2年生と4年生を対象に「企業説明会」を1，3年生には進路講演会を実施し、進学や就職に対する理解を深めることで、自己の進路適性について考える機会を設ける。	4.5	3.2	進路適性を考える機会を与えることができたのは非常に多くの収穫であった。しかし、いまだに卒業後就職することに対してあまり意欲的でない生徒が見られたのが課題となった。	
9	保健部	検診受診率の維持、検尿提出率の増加（80%）、検診後に受診指示をした者の医療機関受診率の増加を目指し、生徒の健康意識・自己管理能力の向上を目指す。	検尿提出率増加のため、生徒に個別に声掛けを行う。また、特に歯科検診後に受診指示を出した者について重点的に事後指導と保健教育を行い、歯科検診の意義について理解を深める。	4.4	3.7	検尿提出率について、R4年58.3%、R5年67%、R6年75.8%となっている。「検尿提出率80%を目指す」とマニュアルに目標を明記したこと、生徒への声掛けをこまめにしたこと、自己の健康への意識が高い生徒の増加が要因と考える。歯科検診後の指導については、生徒の欠席が多く、実施に至らなかったが、検討を続ける。	
10		体験型保健講話等により、主体的に学習活動に取り組める心身をつくる。	ヨガ・ボクシングの体験は3年目となり、生徒の中に定着しつつあるが、積極的に取り組む者とそうでない者の差が大きくなってしまった。その反省を踏まえ、今年度はイメージ絵画（仮）の体験を取り入れ、できる限り生徒が自ら積極的に取り組める場を設ける。	4.5	3.3	全員が積極的に取り組めることを目標に、3つの講話を設定した。ボクシングと絵画はほぼ全員が取り組めていた。ヨガは初めの内は動かなかった者も、次第に参加するようになっていた。継続による効果が表出しつつあると思われるので、次年度も継続して実施したい。	

11	1年	生徒の生活実態や学習状況等を把握し、知識・技能の定着を図る。	少人数指導や習熟の程度に応じた指導により定着を図る。	4.2	3.4	個別に応じた習熟度別授業を展開することができた。個々の生徒の能力を伸ばすことができた。しかし、習熟度別クラスに分けてもクラスによってはクラス内の学力差が著しく大きいクラスもあり、クラス内で進度を合わせるのが難しい状況である。プリント等の教材もクラスに応じて作成することも考えられる。	他者理解がまだ十分には難しい生徒たちかと思う。特性、外国ルーツ、家庭に困難がある、など様々な生徒がいる。先生方が丁寧に対応してくれている。
12		基本的なルールやマナーを遵守し、社会の一員として能力を育成する	多様な人々や異なる文化の価値観を理解し、共生する態度を育成する。	3.9	3.6	本学年は2名の外国籍の生徒がいるが、それらの生徒とうまくコミュニケーションを図ることができ、良い雰囲気を作ることができた。しかし、他者理解について一部の生徒で中々理解することができずトラブルになる場面もあった。LHR等の時間を利用して、他者理解を啓発する授業を展開する。	
13	2年	生徒一人一人が自己肯定感を高めるとともに、互いを尊重できるよう支援する	日々の声掛けを大切にすると共に、「褒める」ことを通じて自己肯定感を育む。そして学校行事等を通じて、自分と異なる他者を認め、思いやりのある行動力を育む。	4.2	3.8	達成できた点は、生徒の自己肯定感を育むための声掛けや「褒める」取り組みである。教員が生徒の良い行動を認めたことで、自信を持つ姿が見られ、生徒同士の思いやりや協力の精神も高まった。 課題は、全ての生徒に均等な支援が難しく、特に内向的な生徒や自己表現が苦手な生徒に対する支援が不足していたため、彼らの自己肯定感の向上が思うように進まなかった可能性が残ることであうる。同様に、学校行事に参加できなかった生徒もおり、多様な経験が不足したこともあげられる。 次年度の課題は、全ての生徒に均等に支援を行う具体策を検討するである。例えば、内向的な生徒には時期指定して個別フォローアップを強化する等が考えられる。また、学校行事への参加促進の声かけを行い、多様な経験を得られる機会を増やしたいと考えている。	希望の見えない子が多いのかなと思う。家庭的に複雑な生徒が多いことが原因かもしれない。子どもは親の背中を見て育つが、17，8歳になると変わっていかないといけない。光があれば目指すところあれば生きていけるのではないだろうか。何をしたら良いかわからない、目標のない若者が多い。大人が掘り下げて話を聞いてあげる必要がある。
14		社会の一員としての能力を育成するために、ルールやマナーを遵守することは単なる義務ではなく、自分自身の成長と社会への貢献につながることを意識させる	正しく挨拶する習慣を身につけ、聞き手に対して丁寧に話すことを意識させる。そして多様な人々や異なる文化の価値観を理解し、共生する態度を育成する。	3.8	3.4	達成できた点として、状況に応じた適切な挨拶をする習慣を身につける教師側の声かけもあり、幾人かの生徒が日常生活において挨拶を意識的に行うようになった。また、学校や地域のイベントにおいて、生徒が自発的に挨拶を交わす姿も見られた。 しかし、聞き手に対して丁寧に話すことを意識させる学びについては、日頃気心の知れた相手以外と話す機会があまりなく、学びの機会が不足していたように思われる。今後は、学校行事やHR活動において、普段接することのない相手ともグループを作るなどの取り組みを行い、多様な人々や異なる文化の価値観を理解し、共生する態度を育成する機会を設ける必要があると考えている。	現在行われているルビうちは大事である。子どもたちは勉強が面白くないというのは、何を勉強しているのか分からないからだと思う。社会に出て活用できる力をつけてやってほしい。
15	3年	生徒一人一人が自己肯定感を高めるとともに、互いを尊重できるよう支援する	・日々の声掛けを大切にすると共に、「褒める」ことを通じて自己肯定感を育む。 ・LHRや学校行事を通じて、自己理解をより一層深め、異なる他者を認め、思いやりのある行動力を育む。	4.5	3.2	昨年度からの取り組みを継続し、「MVPファイル」、「Good Job ファイル」、「三行日記」を通じて、生徒理解や自己肯定感を高める取り組みができた。特に「Good Job ファイル」では、生徒自ら教員に書きたいという生徒が出てきたことが印象的だった。 また、生徒の様子から最後の学校行事という意識を感じとることが多く、これまでで一番協力する姿勢があった。これまで話さなかった生徒同士が話している姿が印象的だった。	
16		卒業に向けて充実した学校生活を送ることで、希望進路の実現を果たせるように支援する	・一人一人の希望進路実現にむけて、責任をもって計画的に行動できるような自己管理能力を育む。 ・家庭との連携を大切に、生徒の成長するサインを見逃さず、こまめな情報共有を行う。	4.5	3.2	進路指導部の熱心な指導の下、多くの生徒が希望進路の実現を果たすことができた。特に、進路に関して学年と進路が生徒や保護者と話した内容を共有した上で、連携・協力することができた。また、生徒の自己管理能力を高めるために、後方黒板の掲示物に月間・週間のスケジュールを掲示し、管理を促したことも、一定程度成果を感じた。	
17	4年	コミュニケーションをはかり、人権を尊重して思いを伝えられるようになる。	LHRや学校行事、湊川高校の人権尊重に取組んだ先輩たちの活動をLHRで学ぶなどを通して自己の内面に向き合うとともに、互いに思いを伝え合い、異なる立場や意見への配慮の重要性を認識して、人権を尊重する。	2.6	3.3	休学中のため、限定的に取り組めた部分として他者のことを考えれるように学年団で促すことができた。	
18		基礎・基本的な学力の定着を通じて、生涯にわたって意欲的に学び続ける姿勢を培う	授業の目標を明示し、目的意識をもって計画的に学習を行うようにするとともに、授業規律を確立して、意欲的に学習に集中できる授業環境を整備する。	2.7	3.5	休学中のため、限定的に取り組めた部分として進路希望を生徒・保護者に対し、聞き取りすることができた。また、コミュニケーションや生徒の興味・関心に応じて授業に取り組むことができた。	
19	人権教育推進委員会	人権教育推進体制や校内外の人権関係との連携	人権教育推進委員会を中心に映画鑑賞会や人権講話、校内研修の実施、神戸地区県立学校人権教育研究協議会研究大会報告・兵庫県人権教育研究協議会中央大会・全国人権研究協議会研究大会熊本大会など各種研究大会など校外研修や大学研究者や湊川高校に関心を寄せ方々へのフィールドワークなど外部との連携、日本語支援生徒など外国にルーツをもつ生徒に対して兵庫県在日外国人高校生交流会などに参加など促し、自分の大切さとともに他者の大切さを認めることができる人権感覚を育成する。	4.0	3.5	人権教育推進委員会を中心に映画鑑賞会及び人権講話を実施。直前に配慮事項もあったがハンセン病元患者の人権について理解を深めることができた。神戸地区県立学校人権教育研究協議会研究大会で人権課題を抱えている生徒の人権保障について報告し、人権教育推進委員会の教員が多数参加、人権意識向上に繋げることができた。兵庫県人権教育研究協議会中央大会・全国人権研究協議会研究大会熊本大会など各種研究大会など校外研修も実施できた。外部との連携では大学研究者による資料調査・研究、大学ゼミナール生や湊川高校に関心を寄せる方々に対し、フィールドワークや本校教員による1990年前後の湊川高校の人権教育の歴史など講話するなど連携を深めることができた。校内研修では湊川高校の人権教育の歴史を講話し、職員の人権意識向上に努めた。日本語支援生徒など外国にルーツをもつ生徒や多文化研究部部員に対して兵庫県在日外国人高校生交流会などに参加など促し、自分の大切さとともに他者の大切さを認めることができるよう人権感覚の育成を図ることができた。今後の課題は、人権意識向上など深めていくことである。	
20	特別支援教育推進委員会	校内支援体制の充実と通級による指導	特別な支援を必要とする生徒に対し通級による指導を実施する。中学からの引継ぎや新入生アンケート、個人面談、行動観察を通して生徒の実態把握に努める。生徒情報交換会を各学年会単位で行い、困り感の背景理解と手立ての共有を図る。UD授業を全校で推進する。学部講師と連携して教員の資質向上を図り、合理的配慮を進める。	4.6	3.7	プレ通級授業などを実施し、希望する生徒に通級指導を実施した。年度当初から新入生をはじめ、各引継ぎや新入生アンケート、個人面談、行動観察を通して生徒情報交換会を定期的に実施し、困り感の背景理解と手立ての共有を図った。UD授業の全校での推進は普及定着してきた。外部講師や内部講師を立て、講演やABC分析研修を行い、教員の資質向上を図った。	